

## 学会運営におけるインターネットの利用

医学部医学科・第一生理 桜田惣太郎

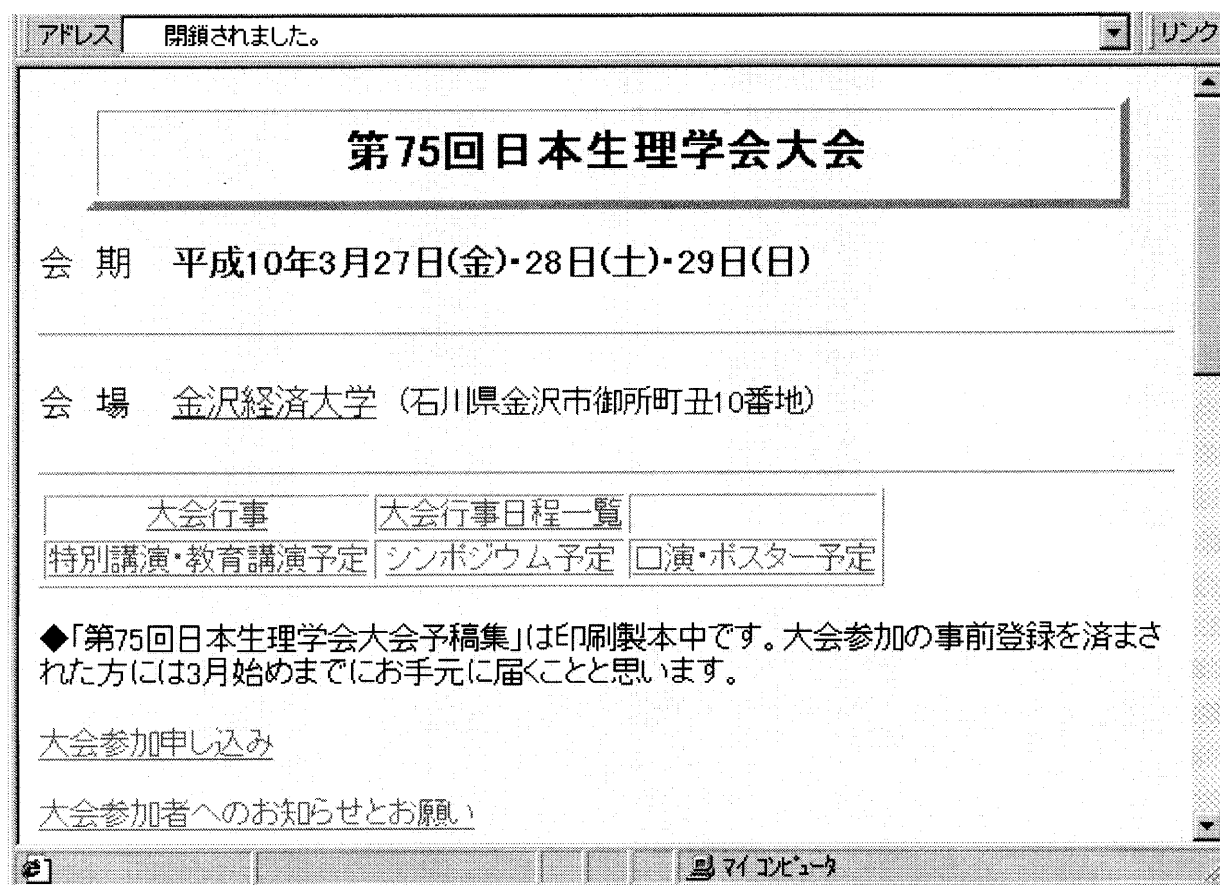
### はじめに

近年のインターネットの急速な普及により、学会運営にもインターネットが利用されるようになった。平成10年3月に第75回日本生理学会大会が金沢にて開催され、本学医学部医学科の生理系講座でその運営を担当した。今回はその時のインターネット利用について報告する。

#### 第75回日本生理学会大会でのインターネットの利用について

本大会を運営する上でのインターネットの利用は以下のごとくであった。

- ホームページの開設
- 電子メールでの連絡や案内、質問の受け付け、大会抄録の受け取り
- gopher サーバーからのファイルのダウンロードサービス
- 学会会場での参加者へのインターネット端末の提供



## ホームページ

第 75 回日本生理学会大会のホームページを開設し、会場案内、参加者への連絡事項、大会行事日程、プログラム、各種懇親会の案内、観光案内などの情報を提供した。ホームページの作成にはワープロや HTML エディターを用い、ほとんどテキストのみのシンプルな物とした。ホームページは大学および学部の情報管理者のご厚意により、医学部医学科の WWW サーバーに置かせていただいた。他の学会のホームページなどは、見た目も非常にきれいで、ホームページ上での演題検索・抄録の閲覧、ホームページからの演題の申し込みなど多くのサービスを提供しているものもある。この様な凝ったホームページを作成するには高度なコンピューターの知識が必要であり、我々はコンピューターの知識に乏しくスタッフの人数も少ないため、必要不可欠・最小限の情報提供に勤めた。アクセス数の調査等は行っていないが、このホームページにはかなりのアクセスがあったと思われる。また、学会員からは更新が遅いとか、もっと多くの情報をとの声もあり、現在ではホームページが学会に参加する上での情報源として大きな役割をしめていることを改めて確認した。今後益々この傾向が強くなると考えられる。

## 電子メール

電子メールは会員への連絡、質問の受付、抄録の受け取りなどに利用した。電子メールでの連絡は手軽かつ便利で、その利用頻度は電話や文書に引けを取らぬほど多く、大会運営期間を通じて総数約 650 件の電子メールを受信し、約 150 件送信した。しかし、抄録の受け取りについては、テキストファイル形式で送るように案内したにもかかわらず、多数の会員からワープロソフト等のバイナリーファイルを添付した形式で送付され、そのファイルを読み込むのに苦労したこともあった。電子メールでバイナリーファイルを送・受信するには、送信時に変換(エンコード)し、受信側で元に戻す(デコード)必要がある。このエンコード・デコードの方式が複数あり、使用するコンピューターや電子メールソフトにより扱えないものもある。また添付ファイルが展開できたとしても、作成に使用されたワープロソフト等が受け取り側がない場合は、ファイルを開くことができない可能性がある。さらに、マクロウイルスの問題もある。このようなことから、どうしても必要でない限り添付ファイルを送付すべきではないと思う。また、1 日に大量の電子メールによる問い合わせがあったため、すぐに返事することができず、学会員から返事が遅いとの苦情をいただいたこともあった。これについてはスタッフの人数が少なく忙しいということでお許しを得たが、送付した側にとってはすぐ返事が来ることを望んで当然であろう。

## *gopher* サーバーからのダウンロードサービス

本大会のサテライトシンポジウムの1つで、演者に抄録を決まった形式で提出していただくために、あるワープロソフトを使用した時の書式設定のテンプレートを本学医学部の *gopher* サーバーにアップロードし、学会のホームページからダウンロードできるようにした。

## 学会当日のインターネット端末の提供

学会会場(金沢経済大学)とその情報管理者のご厚意により、Windows95 搭載パソコン数台と、参加者が持ち込んだノートパソコン等を接続できるハブを数台用意していただき、WWW や電子メールなどを自由に利用できるように設定していただいた。しかし、出張先で電子メールなどを利用する会員の数はそんなに多くなく、もっぱら WWW の閲覧に利用される場合が多かった。

## おわりに

我々はホームページの作成、電子メールの扱いなどどれをとっても、全く知識がない状態で始めた。情報センターの方、医学部や経済大学の情報管理者の方々の御協力で、何とかインターネットを利用した学会運営を行うことができた。アドバイスいただいたりサーバー、施設等をお貸し下さった皆様に感謝いたします。